



# 学校運営協議会だより

令和7年12月9日(火)  
国立市立国立第四小学校  
校長 牧野 陽一郎

合言葉「夢いっぱい 感動いっぱい チャレンジいっぱい 国立第四小学校」

令和7年度 第4回学校運営協議会を開催しましたので、議事の概要を報告します。

開催日時 : 令和7年12月3日(水) 9:30~11:30  
会場 : 国立第四小学校 第一会議室  
出席者 : 緑川隆(会長) 日吉友里奈(副会長) 牧野陽一郎(校長) 榎本七重 立入秀子  
関武彦 齋藤裕子 松ノ木由季  
清原周栄(副校長) 柏木光晴(主幹教諭) 若月雅人(主幹教諭)  
地域学校協働活動推進員: 日吉友里奈

《主な協議内容》 司会: 緑川隆(会長) 記録: 柏木光晴(本校CS推進委員)

- 教育活動について
- 学校評価報告書について

※以上協議内容について、学校運営協議会は承認しました。

《主な意見》

- 教育活動について
  - ・地域と連携した取組では、地域行事に積極的に参加し、地域から多くのお褒めの言葉を受けた。それぞれの学年の学習内容がよく伝わる発表であった。
  - ・防犯等と呼ばけた「児童安全・安心絵画作品展」の取組は、来年で15回目となる。反省点として、個々に声かけはできるが、絵画展を鑑賞された方の反応が把握しにくい点が挙げられる。アンケート用紙等を活用し、学校または福祉館で回収できる仕組みがあるとよい。
  - ・給食の背景については、給食センターから送られる献立メモを基に、放送委員会が季節や郷土料理をテーマとした紹介を行っている。学年の実態に応じて、担任が折に触れて給食指導・食育を行ったり、体験的な活動を実施したりしている。
  - ・展覧会では、一人一人の児童が誇りをもって熱心に制作している様子が伝わってきた。特に6年生の建築の取組が優れており、清水寺に似た作品づくりに挑戦するなど、グループごとに工夫が見られた。今後も継続してほしい取組である。
  - ・展覧会や音楽会を見ることで学校の様子がよく分かる。教職員の努力が伝わり、保護者の感覚も以前と変化していると感じる。また、挨拶の重要性は変わらず、家庭で育まれる要素が大きい。四小の児童はよく挨拶できており、姿勢も良い。
- 学校評価報告書について
  - ・学校評価はわずかではあるが改善が見られた。評価は難しいが、子供の実感を踏まえることが重要である。中休みに児童から挨拶をされるなど、改善の成果を実感している。
  - ・児童アンケートの実施時期の設定が難しい。2学期は行事が多く、アンケート項目の「めあてと振り返り」に影響が出ている可能性がある。同じめあてが続くと意欲が低下するため、めあての具体化が必要である。算数では文章題が苦手な児童が多く、静かに授業を受けているかではなく、めあてをもって取り組んでいるかの視点が求められる。
  - ・1学期と比較して数値は上昇した。PDCAサイクルにおいては結果だけでなく経過を重視することが重要である。
  - ・「めあてと振り返り」に関して、体育の鉄棒運動では、ホワイトボードにめあてを掲示し、一人一台端末を活用して学習に取り組んでいた。児童の発言や行動から、四小の教育活動が日頃から確かなものであることがうかがえる。
  - ・一生懸命取り組むほど評価が上がることは、児童が充実している証拠である。保護者アンケートの期間を延長することで回収率向上が期待できる。「めあて」と「振り返り」を別項目にするとよい。
  - ・アンケート項目は、忙しい保護者でも回答しやすいよう工夫することが望ましい。



次回の学校運営協議会は、令和8年1月23日(金)9時30分より国立第四小学校で開催します。